

経営比較分析表

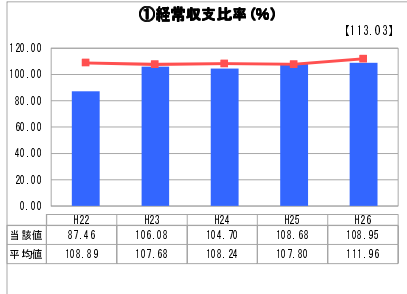
兵庫県 豊岡市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A4
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)
-	50.36	99.96	2,635

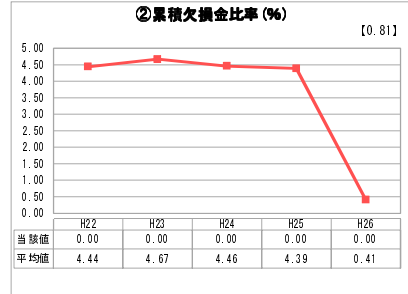
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
85,749	697.55	122.93
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
85,207	171.75	496.11

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
[] 平成26年度全国平均

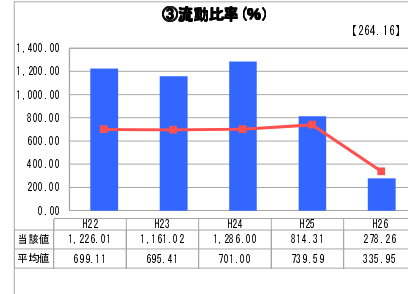
1. 経営の健全性・効率性



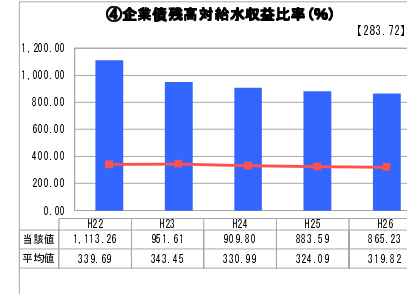
「経常損益」



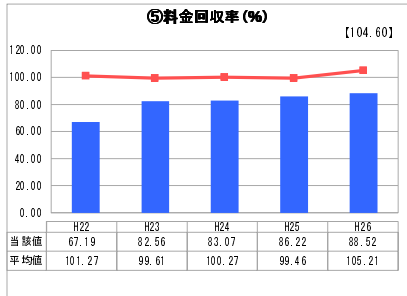
「累積欠損」



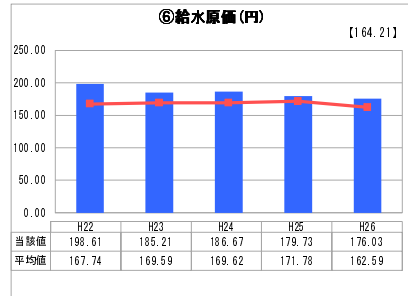
「支払能力」



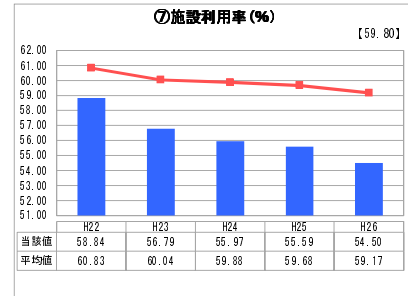
「債務残高」



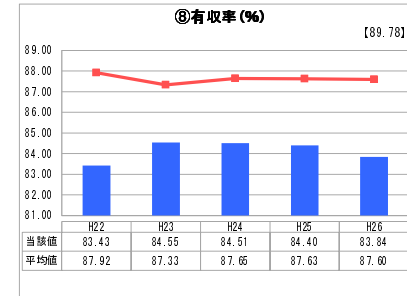
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

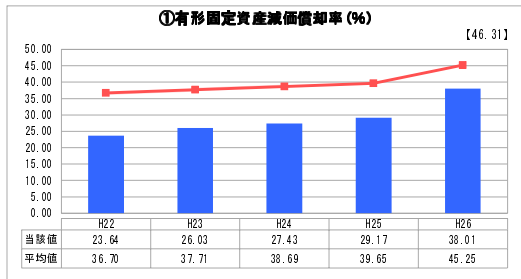


「施設の効率性」

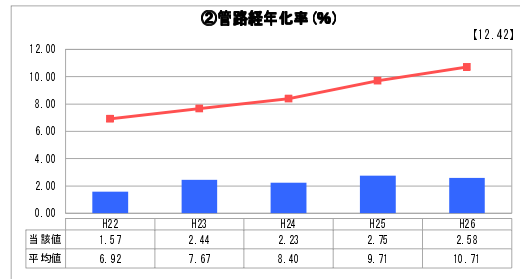


「供給した配水量の効率性」

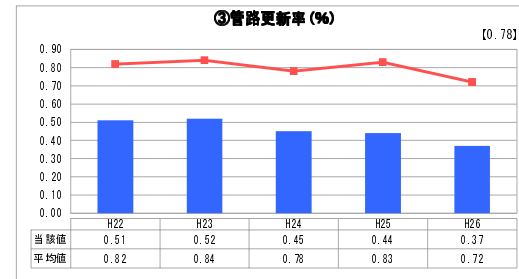
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年率の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率は、平成23年度に実施した平均19.8%増の料金改定の影響で、平成23年度以降100%を超えているが、今後の人口減による水需要の減少が避けられず、維持管理費用の削減に努めていきたい。
- ② 累積欠損金比率は、累積欠損金が発生しない0%を続けており、問題ない状況である。
- ③ 流動比率は、平成25年度までは類似団体平均を超過していたが、平成26年度からは下回っている。会計制度見直しにより、1年以内に償還する企業債を流動負債としたことによるものである。
- ④ 企業債残高対給水収益比率は、低下傾向にはあるが、類似団体平均の2.7倍程度の高い状態が続いている。
- ⑤ 類似団体平均と比較して、経常収支比率はほぼ同じなのに料金回収率が低い状況である。これは、総務部の繰出基準の考えをベースにした繰入金が、類似団体よりも比較的多いと推察されるためである。近年は、給水収益の減少以上に費用が減少しているため、料金回収率は上昇傾向にある。
- ⑥ 給水原価は、類似団体平均よりもやや高いながらも低下傾向にあり、今後も費用の削減を図ってきたい。
- ⑦ 施設利用率は、水需要の減少から低下傾向にあるが、適切な規模の施設更新を進めることにより、低下傾向に歯止めをかけていきたい。
- ⑧ 有収率は、類似団体平均よりも低く、近年、頭打ち状態であり、漏失している配水管の更新を進め、上昇させていきたい。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率は、類似団体平均よりも低いとはいえ、上昇傾向にあり、年々老朽化が進んでいる。
- ② 管路経年率も、①と同様である。
- ③ 管路更新率は、近年、低下傾向にあり、平成26年度は類似団体平均の半分程度の0.37%と、全ての管路を更新するのに、270年かかるペースである。この数値を上昇させることが大きな課題と認識している。

全体総括

経営の健全性・効率性については、収支としては、平成23年度からの料金改定の影響もあり、それ以降は単年度黒字を続け概ね良好な状況である。しかし、財政状況としては、これまでの施設整備のために発行した企業債残高が多く、その償還が給水収益の2.7倍に達している。

老朽化の状況については、現在は類似団体平均よりも老朽化度は低い状況であるが、管路の更新が進んでおらず、老朽化が進み、類似団体平均よりも悪化することも予想される。

人口減による水需要の減少は避けられない状況で、将来を見据えた適切な規模となるよう管路・施設の更新を推進することで、施設維持管理費用の削減、施設利用率の向上、有収率の向上に努めていきたい。

以上の内容を踏まえ、経営戦略、新水道ビジョンを策定し、今後の健全経営につなげていきたい。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。